

僕の

HQ!!
UNOFFICIAL
FANBOOK #2

嘘

を

IWAIZUMI HAJIME
×
OIKAWA TORU

君は知らない

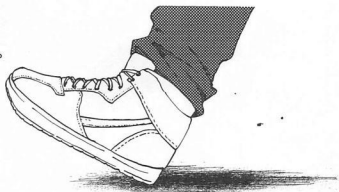
PRESENTED BY. ginger

R18

-FOR-
ADULT
ONLY

※大人になった及川さんと岩ちゃんが
日本の何処かで一人暮らしをしています。

※原作軸とは少し異なりますが
フワッとした設定しかしてませんので
色々想像して見て頂けたら。





おう久しぶり

岩ちゃん!

どーせ
ビールでしょ?
もう頼んじゃった

見てコレ
揚げ出し豆腐
美味しそう♡



なあに勝手に
頼んでんだよ

じゃ何飲む?

ビール!!

お前ら
相変わらずなあ
流石……

だってさー

なあ!
お前もやっと
及川の子守から
開放されるな!!

誰が供だ

コウモリ

あ?



及川
結婚すんだろ?

……は？

ちよっと及川さんの
話聞いて?!

及川薄情すぎない?!

何で
岩泉に報告
してないんだよ

……大神って
もしかして
知らなかった?!

もっしんの
ホラ

お前の冗談は
昔っから笑えねえんだから

コイツ

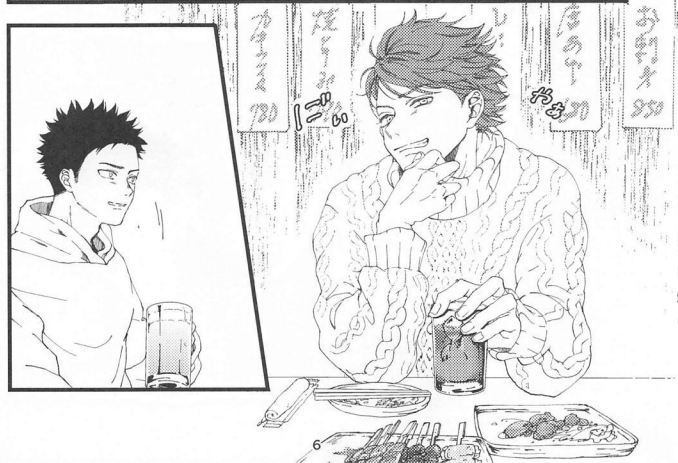
よー喋るわ

言い訳がましい

そもそもまだ
親御さんに正式に
挨拶もしてないし

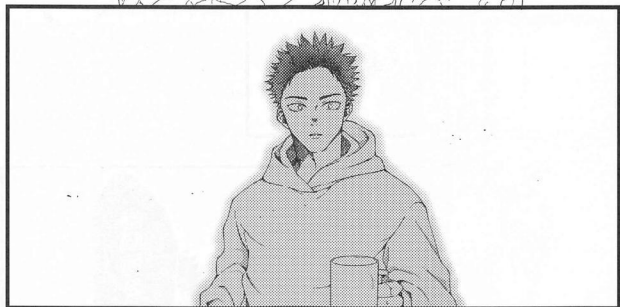
なんつーか岩ちゃんって 逆に恥ずかしくて
もう家族みたいにな
モンじゃん?
なかなか
金えなかったし

何言ってるんだ?



だからさ

そんな時は
スピーチ頼むね
岩ちゃん



照。

言っとくけど
断る権利とかないならね?!

岩ちゃんしか
いないんだから









うんうん!!

しっかしま〜〜
お前が結婚考える歳に
なつたとはなあく〜〜



岩ちゃん!
ソレ親戚のおじちゃんが
言う台詞だから!!

じじくせ〜〜



めでたい
めでたい〜〜

高校の頃ね、

……頃までか

ず
——
っと

好きだったよ
岩ちゃん

フフフ



ハハ

……は



もう
時効だろうし

ビククリした？

うんちや



岩ちゃん？



人のこと
掻き乱して
面白えかよ







及川

俺はもう二回
キスする

逃げる気が
ないなら
その先も

あ——あ

何やっちゃってんの
岩ちゃん

彼の目の
輝きが
僕の心を
揺るがした



……悪イかよ



岩ちゃん
魔法使えるんじゃない!!?

そろそろ
黙れや

最近まで
彼女いたじゃん!!

……えっ
マジ?

嘘でしょ!?

挿入たことねえ



ほあら

!!?

ゴリッ

……
立派な
だべ



お前のせいだよ



ああ……さては
岩ちゃんイン

ちげー

若いのに……
話聞け

びん

はじめくんさ

私の事全然
見てないよ

私越しに

誰を見てるの？

胸糞悪い

お前ばっかり
セックスしやがって

俺以外の奴と

ドン引きしろよ

怖がれよ

突き放せよ



お前の顔しか
思い浮かばねえ……

いつその事



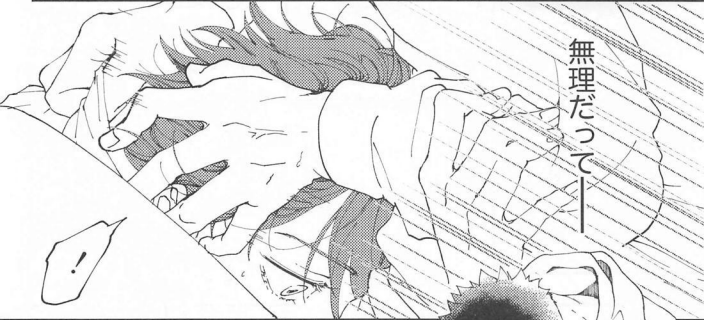
そんな顔すんじやねえ——

……もう後戻り出来ねえぞ

そういう
野暮なコト言うから
モテないんだよ

いわちゃん



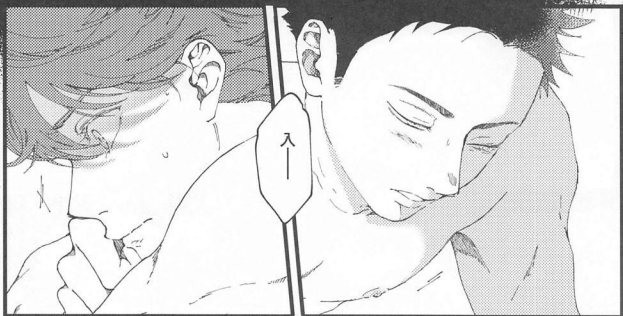




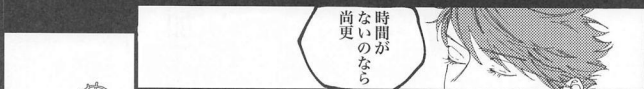
流石に岩ちゃんのも
飲むのは
無理だったね











漠然と



こんな関係が
ずっと続いてくと
思ってた





俺たちちって

何なんだろう



恋とか愛とか

キレイで
甘ったるい響きじゃ
追いつかない



きっと 一生満たされない



歯痒くて
たまらないのに



身体を重ねる
今だって

だけど



痛くて怖くて

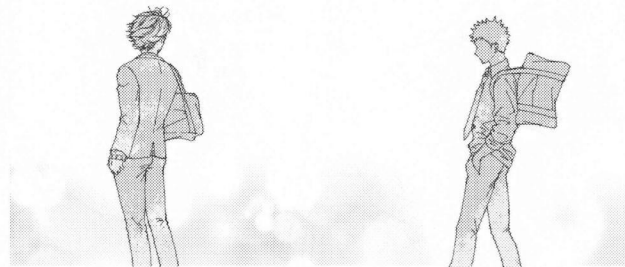
言えなくて



— 怖い



ずっと、心が叫んでた





どこにも
いくなかないで



結婚すんの？

そりゃあねえ？

……

自分に嘘つくのは
性に合わない

今更、
ハイやめたって
無理でしょ。

彼女には殴られ罵られ

賠償金とか
請求されるかも？

おぼちゃん
泣かせらんねーよなあ

泣くかなあ……

でも



俺も何だっつてする



一緒に頭下げる





俺の為の選択だから

俺の



「俺のせい」
じゃないって事な？



〇〇〇

そーか
そーか

何その
ポジティブ変換

怖っ





どーすっか

どうするも何も

何一つ変わらないよ
岩ちゃん



でもね？





今日のこと

なかったことには
したくない……!





今頃アツチは

大雪だろーなあ

今度久しぶりに
帰ってみるべ

一緒に



なかった事も
なにも……



忘れらんねえべ
そのアホ面……



—fin—

はじめましての方、前巻も読んだよ！の方も
改めまして。稲穂の里と申します(^_^)！
今回無事に二冊目の本が、出せました~~~~!!
データが飛んで同じ漫画を二回描くという
恐ろしい事がありました、
逆に話を練り直せたので良かったかなと。
結果オ——ライ!!!

そして今回の新刊はR18に挑戦!!
という事なんですけど慣れるまで頑張りました~
(いやホントちゅーすら恥ずかしくて描けなかった)
まあ緩めですけど、吹っ切れたら楽しくて…へへ。

そういう訳でイチャコラを描こうとなったんですけど、
身体を重ねる事で生まれる葛藤とか
やるせなさみたいなモヤモヤ…
心理的な動きをメインで描けたらいいなと。

だからまあウジウジした漫画に
なっちゃいましたね。。。
及川さんの意地っ張りには苦労しました~
終わり方も、もっと分かりやすくハッピーエンド!
みたいな方がスッキリかと思ったんですけど
この二人はコレで精一杯かな(笑)

今後岩ちゃんがデッカい愛で包みこんでくれて、
及川さんも自分を許してそれを受け入れて、
ゆっくり歩んでいってくれたらいいな。
……と、岩ちゃんに全てを託しました~

及川さん大好き岩ちゃん×素直になれない及川さん

大好きな岩及が描けて幸せでした♡
手にとって頂いて感謝♡♡♡
ではまた。次巻でお会いできたら嬉しいです!



僕の嘘を君は知らない

著者：ginger/稲穂の里
発行日：2021/12/12
印刷：丸正インキ
連絡先：inaho610720@gmail.com
Twitter：@inaho_no_sato

以下の行為は禁止しております

- ・無断転載/複製/模写
- ・インターネットへの掲載
(アイコン/ヘッダー等)
- ・転売(ネットオークション/フリマアプリ他)

↓↓マシュマロ↓↓



こちらに感想を頂けると
嬉しいです。

突然の、及川さんの結婚報告

幼馴染としてせめて笑顔で
祝福しようと心に決めた
岩ちゃんだけど——

及川さん大好き岩ちゃん

x

素直になれない及川さん

大人になった二人の
嘘と身体を重ねる一夜の話

“痛くて、

怖くて、

言えなくて——

ずっと、心が叫んでた”

12/12岩及プチ無配
Anemone/みみ(Pixiv2125948/Twitter@chococircus)
イラスト：稲穂の里様(Tiwwter@@inaho_no_sato)

勘違い Happy End

誤解だらけのメモリーハクス



仙台の冬の夜は綺麗だ。

空は深く澄んで、星が沢山見える。駅前の街路樹にはイルミネーションとデパート前には大きなクリスマスツリーがピカピカして否が応でもロマンチックな気持ち盛り上がる。

俺のサポーターを買うのに岩ちゃんに付き合ってもらった夕方、白い息を吐きながら「綺麗だね」「そうだな」なんて会話をして、駅前のファミレスに入った。

「なあ及川、俺ら付き合ってから初めてのクリスマスじゃん？ プレゼント、何がいい？」

「!?!?!?」

岩ちゃんが真顔でいきなりそんなことを言い出すものだから、俺は思わずドリアを吹きそうになった。

「うおあちっ!?」

「何やってんだドジ川」

動揺しすぎて熱いドリア皿の端に触れてしまい、悲鳴を上げるとすかさずいつも通りの罵声が岩ちゃんから飛んできた。

（付き合っ……?）

——いつから?

岩ちゃんの台詞の意味が分からず、俺は水の入ったグラスに火傷した指を押し付けながら、ぐるぐると思考を巡らせた。

（俺たちにそんなBし展開あった?）

あまりに心当たりがなく、動揺して心臓がドツドツと鳴る。まさか寝ぼけている時にも何か変なこと言った?

「……ほら、クリスマスのプレゼント、お前がほしい物にしてえか

らさ。希望とか、あったら……」

チキンステーキを食べていた岩ちゃんが恥ずかしそうにフォークを下げて、ふいつと視線を逸らした。語尾なんてもうこによしている、

（てっ……、照れてる……）

岩ちゃんの頬がほんのり赤い上に、視線を下向きに逸らして唇を尖らせるのは岩ちゃんの照れている時の癖だ。今思い出したくなかったそんな癖。つてか照れられても……。

「やっぱ、こういうのはずしたくねえじゃん？」
はずしたくないんだ。

「お、あ、ああ、ありがと……」

突然照れる岩ちゃんに動揺していつぱいになりながら、辛うじて感謝の言葉を返す。それにしても……

（ガチのやつじゃん……）

「え、えつと……、もうすぐ付き合っでどれぐらいだっけ?」

案外繊細な岩ちゃんを傷つけないよう怒らせないように、付き合っているらしい情報を探る。

「もうすぐ一か月だろ」

「ヒエツ結構経ってた!」

「だよな。俺もそんな気しねーわ。ずっと前から付き合ってるようなものだっただけ」

意外と期間が経っていたことに動揺して思わず声を上げてしま、俺が「しまった」と思う前に岩ちゃんに超ポジティブに返され、俺は言葉を失ってあああうと口を開けるだけになってしまった。

（そんなことない、そんなことないよ! 付き合ってるようなもん

だったとかそんなことないと思うー)

「今日のデートも楽しかったよな」

「デ……」

——デートだったのか。

「お前がさ、イルミネーション綺麗だねとか言っ

言った。

けど、デートだったのか。

「受験勉強の息抜きに買って買物付き合っただけど、一緒にツリーと
が見られて良かった」

岩ちゃんがロマンチックなことを言っ、恥ずかしそうにニッと
笑った。

(デートだったのか……。岩ちゃん受験勉強忙しいはずなのによく
付き合ってくれたなと思っただけど……)

「さ、綺麗だったね」

当たり障りないことを言っ、背中に冷や汗をダラダラかきなが
らにこつと笑うと、岩ちゃんと目が合っ、岩ちゃんが照れた。な
ぜそこで照れる。

(岩ちゃんそんなキャラじゃなかったじゃん……)

「いや、ツリー見てる時のお前の顔がキラキラしててキレイ……」

「あはは、好きだからね！ クリスマス！」

照れた岩ちゃんから物騒な言葉が飛び出しそうで、慌てて「クリ
スマスが好き」で押し切る。まあまあ好きだけど本当に。

(岩ちゃんそんなキャラじゃなかったじゃん……!!) だめだ、き
つい。ふろう、本当に付き合ってるんなら今ここで)

これ以上甘い岩ちゃんを見たらメンタルが死んでしまいそうで、

付き合っただけ覚えもないのに振る決心をする。好きな人ができた。友
達以上に思えなかった。理由はその辺で適当に。

(ただの幼馴染に戻るう、って言おう！ 戻るもなんも進化した覚え
ないけど……)

「い、いわちゃん……」

「ん？」

心の中で決意をして、今ここで別れ話を切り出すべく俺は口を開
いた。付き合っって一か月なら傷も浅い。岩ちゃんはモテるし、クリ
スマスまであと一週間だとしても相手をつくることは難しくない
はず。

「デザート頼むか？ 奢ってやるよ」

「えっ、そんな、悪いよ。買い物だっけ付き合ってもらったのに……」

……

岩ちゃんが優しい顔でデザートメニューを差し出してくる。

「まあか、俺と一緒にいたくて付いてっただけだ、何がいい？」

「ウウツ……、チョコバナナパフェがいいです！」

(ぐうう、イケメン……！)

自分相手にじゃなかったらなんてイケメンなんだ。自分相手にで
さえなかったら。眩さに圧倒されて思わずパフェをねだっってしまう
と、岩ちゃんはすかさず店員に注文をした。

(いや、パフェは俺が払うし、なんならここ全部俺が払うから……、
ちゃんと岩ちゃんと別れないと……)

ズルズル付き合ったって俺はアルゼンチンに行っちゃおうし、望ま
ない遠距離なんてお互いが不幸になるだけだ。いやそもそもズルズ
ルどころか付き合っただけ覚えもないけど。

「岩ちゃん、あの……」

「最近よく思うんだけどよ、お前と付き合ってるおかげでメリハリができてんのか、肌の調子もいいし、受験勉強も捗ってて、模試の成績も上がったんだよな」

(俺にそんな謎の効果ないから……！)

たしかに岩ちゃんはここ一か月で成績が伸びたと言っていたが、それは本人の努力の結果であって、俺のおかげでは決して無い。肌の調子もそれは岩ちゃんのお母ちゃん料理のおかげ！

「このまま本番もお前のこと思い出して頑張れそうだわ、ありがとな」

(う、ううう……)

岩ちゃんの試験まであと二か月半。ここでさすがに俺の心に迷いが生まれた。大事な幼馴染を、いくら勘違いとはいえたった今、振ることで受験前の調子を崩してしまうのは如何なものか。

(別に、一か月つきあっても何かされたわけでもないし……)

思い出す限り手すら繋いでいないし、岩ちゃんは何もする気がないプラトニックな感じが好きなのもかもしれない。

(だったらもうちょっとの間ぐらい、付き合っても……)

岩ちゃんが大学に合格してからキツパリサツパリ別れればいんだし。そもそも付き合ってた覚えもないけど。

だから、もうちょっとぐらいい恋人(？)でいてもいいのかなって……。

(なんか、恥ずかしくて顔熱くなってきた……)

「……マフラー……」

なぜか火照ってきた頬を両手で押さえて、岩ちゃんを見上げる。

「クリスマスプレゼント、マフラーがほしい、チェックのやつ」

「……おう、わかった！」

岩ちゃんがかつと笑い、「似合いそうなやつ探すな」と言う。

受験生なのにそんなことしなくてもいいのに、きつと必死に似合いそうなものを探してくれる気なんだらう。

(うれしそう……。何色とかどこのとか、もつと詳しく言えばよかったな……)

岩ちゃんの純情を弄んでいるような気になってさすがに申し訳なさで胸が痛み、俺からも一応お返しを申し出る。

「岩ちゃんは、何がほしい？」

俺の気遣いに溢れたその一言が、地雷を踏むことになるとも思わずに。

「え？ お前」

(突然のBL展開——！)

結局付き合った覚えもないのに別れられなかった俺は、無事にクリスマスプレゼント交換を終えてしまい、あの日に色々な何かを喪った。岩ちゃんとは卒業時に距離が離れるも、無駄に強い絆で無事に遠距離恋愛をこなしてしまい、別れる隙ができないまま現在二十八歳。いつの間にか超優秀なアスレティックトレーナーになって世界中から引く手数多の岩ちゃんが、同性婚が認められているアルゼンチンに渡ってきて、先日プロポーズをされて……。

もういいかなって思って、今日俺たちは幸せになります！